

編集後記

みなさんは休日に遊びに行く時、観光に行く時、移住をする時、どんな場所を選びますか？今回取り上げさせていただいた西山さんと西尾さんは、趣味や仕事を全力で楽しんでいました。都会のような利便性はなくても、ふらっと外に出れば四季を感じられる大自然があり、釣りをすればたくさんの魚を釣ることができる。この地域の縁であるアイヌ文化に感銘を受け、アイヌ刺繍を勉強し、いつか着物を再現したいと夢中になれる。「住んでいる人が楽しく暮らしている町」は、きっと遊びに行く時、観光に行く時、移住する時に選ばれる町になると思います。日々の暮らしの中で「こんなことが出来たら楽しい！」「あんなことをやってみたい！」という気持ちがあっても、1人ではできないからと押し殺してしまうこともあると思います。「sipeto」を通じて標津町でもこんな活動をしている人がいるということを皆さんに知ってもらい、「やってみようかな」と思ってもらえるきっかけになればと思います。標津に住む人全員が楽しく暮らせる町になるよう2年目の今年も皆さんに支えられながら全力で駆け抜けていきたいと思います。

(M)

— Special Thanks! —

あかつきダイニング
A マート
川北郵便局
郷土料理武田
ぎんれい精肉店
くるくる2
合田商店

後藤商店書店部
標津漁協直売所
標津郵便局
セイコーマートこんどう標津店
セイコーマート標津まるよし店
セブンイレブン標津町店
大地みらい信用金庫標津支店

ファミリーレストランいしばし
福住
ホームックニコット
Kuni OFFICE
ポー川史跡自然公園
標津サーモン科学館
*五十音順・敬称略

Follow us on Facebook & Instagram & Twitter !!!

記事に収まらなかったこぼれ話やインタビューの様子などを更新！検索してみてくださいね。



Facebook



Instagram



Twitter

— Information —

しべつろーかるふりーペーぱー
sipeto №5
Spring 2019



2019年4月20日発行
発行人 Ynet.
発行所 〒086-1632
北海道標津郡標津町北2条西1丁目1番3号
標津町役場企画政策課内
TEL.0153-82-2131
FAX.0153-82-3011

- バックナンバーのご希望は上記までご連絡ください
- 次回発行は2019年7月の予定です



しべつろーかるふりーペーぱー

sipeto

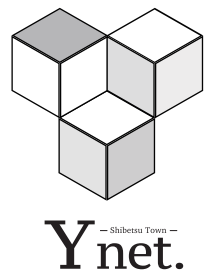
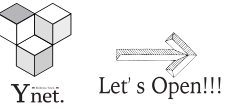
Shibetsu Civic Pride Project by Ynet.

[CONTENTS]

発行にあたって / Places related to “sipeto”

インタビュー 10 西山美紀子さん - 11 西尾朋高さん / 編集後記 / and more

№5
Spring
2019
Take Free



皆さまのおかげで
2年目突入!!
Thank you

発行にあたって

皆さんこんにちは。本紙を手にとっていただきありがとうございます。私たち「Ynet.」は町民活動の活性化、町内ネットワークの拡大・構築を目指し組織された役場職員で構成するグループです。標津町には様々なまちづくりに関係する活動をしている団体や個人の方がいて、実際にお会いしてみると、標津町にはこんなにも味わい深い人たちがいるね、っと気づかされました。本紙の表題「sipeto(シベト)」は標津の語源になったとされるアイヌ語「シベツ」と日本語の「人(ト・to)」を掛け合わせた造語で、標津に住む活動的な方々をたくさんの方に知っていただきたく名付けました。

sipetoを通じて人の活動に込められた『想い』に触れて、知って、共感して、共に活動する方が一人でも増えることになればうれしく思います。

Ynet.

Places related to “sipeto”

--- ポー川史跡自然公園 ---

普段は飾られていないというアイヌ刺繍の着物を、見せていただきました！



《ポー川史跡自然公園》

北海道標津郡標津町字伊茶仁 2784 番地
・開園時間 9:00 - 17:00
(入園は16:30まで)
・開園期間 ※開園期間中無休
4月29日～11月23日



Report

アイヌ刺繍を施した着物がポー川史跡自然公園にあります。この着物は明治時代の初期に作られたものだそうで、なんと、刺繍の文様はすべて一筆で縫い上げているそうですよ！表はもちろん裏地もきれいな文様になっていました。他にも前掛けや、オヒョウニレという木の樹皮から作った着物があり、これは水に濡れても乾くのが早いので、漁に出る際に着ていたものだそうです。

今のうちに物がたくさんある時代じゃない中、より良い生活を送るための先人の「知恵」が見えたような気がしました。

今回インタビューさせていただいた方たちに
まつわる場所に行ってきました！

--- 標津サーモン科学館 ---

Report

西尾さんに館内を案内していただきました。最初に目に飛び込んでくる“大型水槽”は迫力満点！サケなど標津で獲れるさまざまな魚を展示しており、“座布団級”のマツカワの優雅な姿は圧巻です。大型水槽の横に目を移すとちょこんと小さな水槽があり、覗いてみると「フサギンボ」という聞き慣れない魚が(写真中段)。この魚も標津で獲れるとのこと「へえ～」と関心する私に西尾さんもニヤリとしていました。館内にはサケのシーズン以外でも楽しめる体験コーナーも。ドクターフィッシュ・チョウザメの指パク体験、イトウの餌やり……。時間を忘れて楽しむことができました。

《標津サーモン科学館》

北海道標津郡標津町北1条西6丁目1-1
・開館時間 9:30 - 17:00 (入館受付は16:30まで)
・休館日
5月～10月は無休
2月～4月・11月は毎週水曜日
(水曜日が祝日の場合は翌日休館)



【なんと！】サーモン科学館入場時に「シベト見たよ！」で、
個人でも団体料金で入館させていただけることになりました！
た！割引期間は2019年5月31日まで！レッツゴー！！



10

アイヌ刺繍愛好家 西山 美紀子さん

---AINU SISYU FUN---

ある日突然、アイヌ
文様に魅せられた。

― アイヌ文様を好きになったきっかけは？

ずっとアイヌ文化には興味がなかったんですけど、毎年桜木町の生活館で講習会をやっていて、そこにアイヌの木彫りコースターを教える貝沢さんというすごい先生が二風谷から来ていて、誰に誘われたわけでもなく、「あら、なんかやってみようかな〜」って。木彫りなんかもちろんできないし、図工が得意なわけでもないんですけど、一人でひょこっと行ってみたら、なんだかとてもすごいものなんだなと思って、アイヌ文化、アイヌ文様の綺麗さにそこで突然目覚めたんです。

― それはいつくらい？

3年くらい前。あんまり綺麗でびっくりして、アイヌ文様とはなんぞやっていうのを、ネットで調べると綺麗なものが山のように出てきて。じゃあ誰に習ったらいいんだろう？ こんなすごいものは、ただ見た目だけじゃなくて、アイヌ民族の心も分らないやあって。なんか思ったんですね。

それで一番最初は紙の切り絵。その後刺繍を。刺繍ってこの辺で教えてくれるところがないので、本を買ったり図書館から借りたりして初めて作ったんです。ひどい下手くそなんですけど、とっても大満足で。その後すごく素敵な本を見つけて、その本の先生が網走の北方民族博物館ってところで年1回講習会をやっているというのがわかって、すぐ申し込みました。その講習会の時に標津から来たことを言ったら、「あら、私標津に行っているのよ」って先生が。イチャルパの祭祀に来てくれる阿寒湖畔のアイヌ協会の方の奥さんだったんです。なんだか勝手に縁を感じてですね。阿寒湖畔の先生のお店まで何度も押しかけて行って、「じゃあいいわよ。教えてあげるわよ。私本当はそんなの行かないのよ」って言って、標津で昨年の6月に2日間もアイヌ刺繍教室をやってくれたの。

― ご自身の教室以外の活動は？

アイヌ協会主催のアイヌ伝統工芸展っていうのがあって、「出してごらん」って、事務局長さんに言われて出してみたんです。そしたら「奨励賞に入ったわよ！」って。なんで入ったかっていうと、きつと



文様でもらったんじゃないかな？と思うんですよ。これはその作品の元になっているものなんですけど、ポー川の文様なの（下写真）。マンタリって言うアイヌの前掛けの文様。大正末期の文様らしいんだけど、七宝文様（しっぽうもんよう）っていう和の文様と、アイヌのアイウシっていう文様が融合されているのがすごい。私の先生も「こんなの見たことないわ。」ってすごく感激されて、ムックリをマンタリの前で演奏してくれたんです。こんな素晴らしい文様に出会わせてくれたことに感謝しています。



ポー川の文様を刺繍した作品

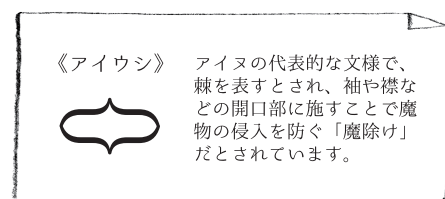
― 今後も個人的に作って機会があればお披露目していく感じ？

そうですね。何も考えないで突き進んでいる状態なんですけど、今年も先生にお願いして刺繍教室を開催します。ポー川の文様でランチョンマットを作る予定です。他には標津のお土産品にアイヌのものもあたらいいよねとか、体験もできたらいいよねとか、標津でもアイヌ文様が見れるようになるといいかなと思います。私も、もうちょっと上手になったら、飾って。あとと大きなものが作れるようになったら、飾って。あとは、上手になったら、ポー川の着物を複製したいです。展示してないんですけどすごく心温まるいい感じの着物なんですよ。

― 改めてアイヌ文化の魅力みたいなものは？

だってね、当時は生地も糸もなく、糸って昔植物をよってよって作って、もう手の指紋もなくなって痛くなって擦り切れるまでのものをよってよって糸にしたの。針もないから、魚の骨とか鹿の骨とかに

穴を開けたもので作る。しかも、紙もなければ鉛筆もないので、文様も、囲炉裏とか砂浜とかで手書きで練習したものを布を折ったり印をつけたりしながら、爪でキーってやったんですって。それがこんな独創的なすごい文様なのもう、なんていうんでしょう。心打たれる文様ですね。夜は電気がつかないし、屋間は働かなきゃならないのに、どうやってつくったんだろうって。で、文様には一般的に意味があって、棘が、悪いものが入ってこないように守ったりとか、あとはフクロウなどの動物や、ぶどうのつるなどの植物からとったものが多いみたいで。自然の中からとってやっているんですよ。



― 標津の魅力を次の世代にうまく繋げていくには？

あのポー川の副読本があるじゃないですか。子供達全員が持っていると思う。標津がどんな風にできてるのかとか、みんな知らないですよ。私もあの本を見てそうだったのかと知りました。もうバイブルです。一家に一冊。まずはやっぱりどう町が出来たのか知らないと、大事にできないので。歴史を知る機会がないんです。だから教育の中で入ってもらって、みんなじゃなくても、その世代に何人かずついれば繋がっていくかなと思います。



ご自宅にある作品の一部を見せていただきました

11

サーモン科学館副館長 西尾 朋高さん

---SALMON MUSEUM---

鮭を通じて標津を
知ってもらいたい。

― 標津町に来るに至った経緯は？

出身は千葉県で、標津町に来たのが平成24年3月です。前職はウトロで13年間くらいガイドの仕事をしており、NPO立ち上げのタイミングで人を探していたところで、たまたまタイミングがあって、マッチングしたのはラッキーだったなと。ガイドの仕事をするうえでもサケの勉強もしたいというのもあったし、小さい時から魚釣りをじいちゃんに仕込まれて好きだった。そんな今までのことがここでの仕事の経験値になってつながっているんだというのが実感としてすごくあって、恵まれていたなと思っています。



インタビュー時の西尾副館長

― サーモン科学館の取組について教えてください。

サーモン科学館を1番支えてくれているのは、地域のご家族連れだと思います。そのようなファミリー層には何度でも来たいような仕掛けをどんどんしていきたいなと思っています。小さなことでも、「ここが変わっている！」とか「これ増えたんだね！」って感じてもらいたい。そういう部分は手堅く、小ネタであっても仕掛けていきたいですね。サーモン科学館のフェイスブックもまめに更新するようにしています。その積み重ねでサーモン科学館のファン、標津町のファンという方が1人でも増えればいいと感じます。あと、うちがよく言われることは「情報量が多い」。サーモン科学館に飾ってある古いパネルを読んでみると一通りサケのことが書いてあるし、あの情報を読ませる工夫が必要になってくる。まだ表現できていないこともありますけど、サーモン科学館はサケのことがなんでも分かる情報はそろって



いるので、そこは胸をはってやっていきたいなと思っています。

― 西尾さんが薦めるサーモン科学館の見方は？

GWに春のイベント「春祭り」をします。今年は10連休なので、10日間やるような形になります。今準備段階ですが、特別展として日本遺産の認定に向けてまとめたサケのストーリーを改めて紹介する場にしたいです。日本遺産ってまさにこの地域の素材、良さ、歴史というのを改めてサケを中心に振り返ってひとまとめにしたってことだと思うんですけど、やっぱりこのエリアの中心にはサケがいるんだなあと。今まで点だったものがストーリーになっていると思うので、それを地域の人理解して、「へえ！すげえ！」って思えばいいんじゃないでしょうか。そしたら自慢したくなるじゃないですか。

― 標津町でやりたいことは？

まずはサーモン科学館ありますが、一個人としてドキドキすることがやりたいと思っています。できれば自分たちにしかできないことができれば良いなと思っています。今サーモン科学館でやっていること、やりたいことというのも、標津町だから、自分たちだから表現できる水槽みたいなことだったり、企画だったりというのを見て人たちにうまく響くような形でできるとというのが自分のなかのエキサイティングなこと。身の丈にあった面白いことがちょっとずつでもできていけば、やりたいことをやっていけばみんな楽しいんじゃないかなあと。やっている人間が楽しいと思ってやっているから盛り上がるんだと思います。何事もやっぱりそういうことなんじゃないかなあと私は思っています。

― 標津町に対して愛着、誇りを感じている部分は？

1番は子育て支援。自分がそういう世代なので。子育てに対しての支援は恵まれていると感じていて、出産祝い金の支援があるおかげで、出産のハードルはかなり下がりましたね。子どもを3人っていうのは全国的に見たら頑張ったねと言われると思うけど、標津町はざらにいるなと。子育てがしやすい暮らしやすいっていうのは、すごく感じています。サーモン科学館の

職員と話をしていて、子どもを産んで育てるならやっぱり標津がいいなって言っていたのは素晴らしいことだと思います。あと小学校で行っているサケ学習は、関係者にはすごく評価されています。遡上したサケ、採卵したサケが、自分たちが放流したサケかもしれないというサケの一生とうまくリンクした取り組みになっている。それは、ここの立地と地域の良さだと思う。

― 標津の魅力を発信するとしたらどのようにするのがよいと思いますか？

標津はポー川のカヌーやスノーシューなど結構なんでもそろっている面はあると思うんですが、もっとすごいフィールドがすぐ近くにあると思うので、そういう単品での勝負は難しいのかなと。標津町の総合力。釣りだとか自然系の体験だったり、漁業だったり、景色だったり、トータルでやらなければ難しいと思う。更にもっと広げて中標津、別海、標津の3町で何かできたら面白いなと。よくある自然だとかの観光資源だけでなく、ご飯を食べに行こうって食べるものがどこもおもしろかったり、すごい量が多かったり。グルメ情報を3町でまとめてみるだけでも良いと思う。この町に住んでこんなに楽しいことがあるんだと常に情報発信ができる仕組みができると良いなと思います。この3町は道東でも通過されることが多いので、「道東のミステリートライアングル」と銘打って素通りされないような仕掛けを作っていければ面白いなと思って、私自身も周りに種をまいています。



サーモン科学館の皆さんで